

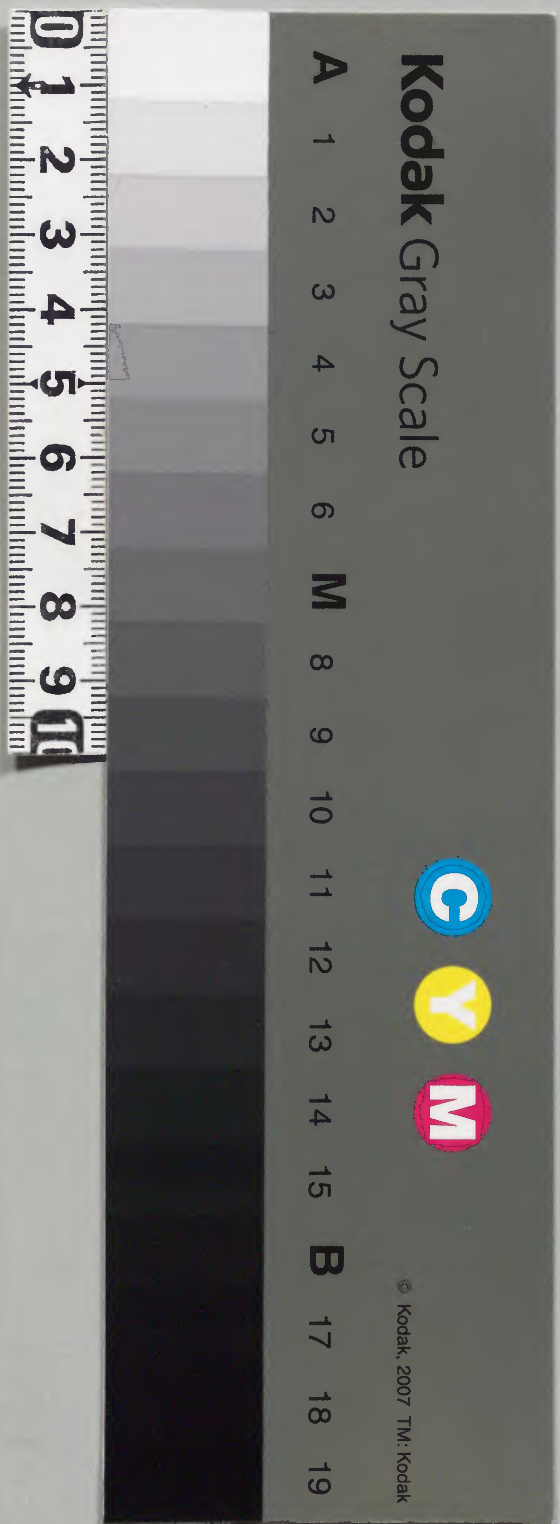
編年集成

十二

内一三九七八號

内閣文庫			
和書	架	冊	號
一〇三十三	四	八	七

内閣文庫	
番號	和 10362
冊數	48 (13)
函號	150 2



武德編年集成卷之十二

元龜二年
正月小

南宮
庶庫

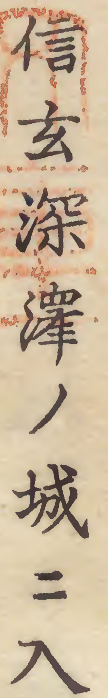
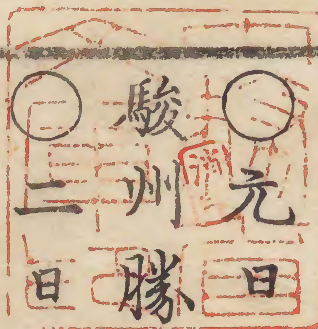
木村高敦 撰

武田信玄其兵三万五千ヲ率テ

駿州勝山ニ到ル

信玄深澤ノ城ニ入

○往年織田信長勢州ヲ侵畧シ神戶藏人
盛友ト和融シ信長三男三七信孝ヲ以テ
神戶カ嗣子ト成ス然ルニ信長狐狼ノ心



内一二九七八號

ヲ起シ今歳首ノ賀ヲ述ニ為ニ藏人舅蒲
生定秀カ許へ来ル所ヲ虜トシ日野ニ籠
居アラシムト云々

○五日 神君從五位上ニ叙シ玉フ北條
既ニ武田ニ和ヲ請フトイへ_レ信玄尚疑
テ小田原發向ト称シ鷹巢城へ小山田右
兵衛尉信茂ニ飛驒勢ヲ合セ一万四千ニ
テ馳向テ城將北條左衛門大夫ヲ引出シ
戰へシ山縣ハ一万ニテ案内者ヲ以テ小
田原諏訪原山ヲ取敷へシト定ムル所甲

州郡内ノ上野原加藤丹後カ許へ北條家
ノ人質北條右衛門佐氏堯ヲ贈ル加藤則
深沢ニ到リ信玄ニ此事ヲ達シ北條ノ兩
使_{長尾藤九衛門}ヲ携フ信玄其兩使ニ款
原甚之丞昌支ヲ添テ氏政ノ許ニ遣ハシ
煩ノ為ニ今一人ノ質ヲ乞フ所即北條助
五郎氏規ヲ重テ贈ル

○或ハ是ヨリシテ信玄出陳ノ度毎ニ
氏政ヨリ大藤清水笠原三隊援兵トス
へキ由ヲ達ス信玄許容シテ深沢へ三

將ヲ招キ謁ヲ執ラセ甲府ノ古籠屋小路ニ寓館三十四間ヲ渡シ右衛門佐氏堯ヲハ留テ助五郎氏規ヲ返シ遣ハス
 ○傳ニ曰頃日高天神ノ吾兵弓銃ヲ修鍊ス小笠原與左衛門力毛森村ノ奥山ヨリ發シ矢五町餘ヲ飛シテ南ノ田中ニ雷リ其所ニ矢塚ヲ築キ證トス
 ○七日 北條氏政ヨリ小倉資久ニ感状ヲ與フ

今夜之ニ一戰東旭身命ヲ乞ヒ於遂下志云

其賞之威物切テ何事也起テハ情又善流了有
 照讀者也仍状出件

元龜二年三月七日 氏政

小倉内花岡氏

然レ臣資久ハ北條家ノ弓矢鈍クナルヲ見テ遂ニハ其妻子ト臣ニ小田原ヨリ深沢へ来リ信玄ニ仕へテ天正三乙亥年ニ長篠ノ附城山中山ニテ浪客組ニ列シ戦死ス其子ハ 神君ノ隊長森川金石衛門氏俊力與力ト成ル

○十一日 神君侍從ニ任シ玉ヲ

二月大

○十六日 信玄甲府ヲ發ス

○廿三日 信玄田中城ニ遷ル

○廿四日 信玄遠州ノ地ニ入大堰川ノ

下流西ノ端ニ屯シ其邊ヲ巡視シ能滿寺

ニ城ヲ築ク且相良ト勝間田ノ間瀧堺ト

云地ニ握奇ヲ居ヘテ此所ノ旧壘ヲ修築

セント欲シケレ氏分内挾キ故其北ハ山

聳ヘ東ハ海上渺々トシテ豆駿ヲ眼下ニ

眺メ西ハ郊原金谷日坂小夜中山諏訪原

迄續キ見切ヨケレハ馬場美濃氏勝ニ命

シ微勢ニテ防戰便ヲ得タル城ヲ築カシ

メ相良ノ城ト稱ス而シテ近郷ヘ手遣ヒ

有テ榛原郡鎌田相良ノ兩庄ヲ平治ス此

邊ノ地士或ハ屬シ或ハ方々ヘ落鬼ス菅

谷ノ川田平兵衛ハ小笠原長忠力勸メニ

依テ 神君ニ屬セント高天神ニ赴ク所

是人ハ老功場數ノ士タルユヘ小笠原長

忠大ニ歡テ采邑ヲ授ク

○是日松平兵庫親廣卒長澤ノ上野介
 ○廿五日 信玄近日高天神ノ城ヲ攻メ
 キ旨小笠原彦七郎貞頼力後士相田又兵
 衛伊野治部右衛門濱松へ注進ス

三月小

○五日 高天神ノ城ニ本丸ニ小笠原
 與八郎長忠居住シ渥美源五郎勝吉村松
 郷右衛門福岡太郎八大村弥兵衛曾根孫
 大夫長一三井孫左衛門ヲ武者奉行トシ
 五百餘兵三ノ丸ニハ小笠原與左衛門ヲ

主將トシ小笠原庄大夫等ノ一族丹羽五
 郎右衛門カ一類二百五十餘武者奉行ハ
 丹羽縫殿左衛門村松郷八野々山七左衛
 門鈴木五郎大夫同權太郎中根日根之丞
 松下助左衛門範久也西丸ニハ本間八郎
 三郎清氏丸尾修理義清ヲ兩大將トシ丸
 尾三郎兵衛同五郎三郎同新五郎本間源
 右衛門同五大夫同兵右衛門淺井吉兵衛
 同五六郎權田宗右衛門山下與五右衛門
 大河内孫右衛門福富市平小笠原治右衛

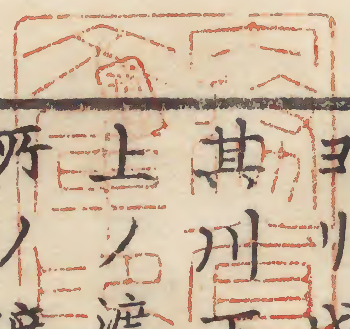
門正次岡本藤右衛門松島五平大原新平
高岡七兵衛三井孫七百々徳右衛門佐和
戸市兵衛芝田四郎兵衛花井八郎右衛門
西郷市郎左衛門岡本久弥市川門大夫高
岡弥五右衛門同瀨左衛門村山八右衛門
蓑浦茂左衛門杉浦一學同弥七郎柘植八
左衛門西村清左衛門同八兵衛朝比奈新
助同十左衛門等三百餘兵御前曲輪八齋
藤宗林小笠原河内守將卜之村松左近
其長男六郎右衛門馬淵半一杉浦能登郎

武藤源右衛門向坂牛之助安田越前池田
拔平伏木久内梶川魚平淺羽次郎右衛門
漢人十右衛門戸塚九平小島與五右衛門
同武左衛門海福久右衛門黒田九郎大夫
義則同義得入道玄忠永田太郎左衛門清
傳粕屋善左衛門則高齋藤權兵衛同左門
同五郎七郎池田左内同十内村井多左衛
門淺山吉兵衛木村長兵衛同又右衛門市
川門左衛門荒瀨弥五左衛門伊藤入道松
下平八犬塚市平同又右衛門田中平助赤

尾孫助容輪兵助等二百餘兵搦平北口裏
 門ヲ八渡邊金大夫照小笠原長左衛門林
 平六ヲ首將ト杉浦左太夫上田新左衛
 門久野平大夫同兵三郎同三郎五郎戸塚
 五左衛門同半彌長坂新五郎佐々安右衛
 門河上兵大夫佐原權左衛門村上左大夫
 宮地三郎大夫森善右衛門與垣八内等二
 百五十餘兵出方村ノ入口迄城中トシテ
 搦門アリ是ヨリ水木ノ用ヲ整フ大手池
 ノ段ハ小笠原右京氏義赤堀大學正信ヲ

守將ト小笠原久兵衛小池左近大石外
 記氏久其子新次郎久末山下七郎右衛門
 村田弥摠野間與五左衛門小島次郎右衛
 門今澤源右衛門波切金右衛門同金十郎
 村越半右衛門川田平兵衛同平太郎鈴木
 左内同九郎左衛門古川清右衛門神野八
 郎兵衛村井久右衛門丹羽弥摠牧野勘兵
 衛八木勘右衛門前島金次夫加藤傳次市
 川傳兵衛戸内助左衛門今村新之丞久世
 三四郎廣宣坂部又十郎正家與村仁左衛

門長坂門三郎淺羽角平堀田九郎右衛門
同九八松島五兵衛山中與五右衛門廣田
五左衛門寺西市右衛門松浦左大夫門奈
七郎右衛門小栴津喜大夫村松左内村山
八右衛門小笠原與次郎柴田作左衛門竹
田右衛門等三百餘兵帶郭ハ吉原又兵衛
力組廿五騎弓銃ノ卒三十人遊軍ハ伊達
與兵衛定鎮中山是非之助力組騎士輕率
凡二百七十人都合二千餘楯籠ル是ハ近
邊小身ノ給人或ハ駿府落魄ノ士 神君



ヨリ皆與八郎ニ附属セラル故多勢ニ及
フ所也信玄今日此城ノ巽鹽買坂ノ原中
ニ張陳ニ存候ヲ以テ地利ヲ窺ハシム是
ヨリ城迄二里半許ノ間ニ城東郡川アリ
其川下ニ大ナル沼池有テ池ノ北方十ル
上ノ渡ト池ノ下國安村ノ西ノ渡ト二箇
所ノ渡ルヘキ所ヲ聞届ケ内藤修理昌豊
ヲ呼テ小笠原ハ弱年ト維勇勢ノ者ニノ
姊川ノ戦功ニ誇ルトイヘリ吾兵未痛ク
攻ル凡一月ヲ歴ヘシ其間ニ織田 徳川

後詰アラハ卷解入事難少ノ由ハ敷大事
 成ヘシ此度ハ敵出ハ一鹽付テ逸ルヘシ
 トイヘ凡万一先鋒敗ルニ於テハ信玄一
 生ノ瑕瑾ナランカ汝如斯迫合ヲ得物ト
 一戰ノ敵ニ一鹽付ヘキ旨ヲ諭ス内藤
 領掌ノ兵ヲ進ム城ヨリモ川ノ上ノ渡獅
 子力鼻ヘハ本間八郎三郎丸尾修理齋藤
 宗林雜兵凡ニ二百五十人弓銃ヲ備ヘ大
 斥候ニ出ル下ノ渡濱手ノ道筋國安村ノ
 西要害ノ場ヘハ小笠原右京ヲ將トシテ

中山是非之助池田拔平容輪兵助石野藤
 助吉原又兵衛赤堀大學伊達與兵衛久世
 坂部川田大石小池渥美福岡太郎八渡邊
 金大夫村越半右衛門荒瀨弥五左衛門林
 平六杉浦能登郎武藤弥右衛門黑田九郎
 大夫三井孫左衛門柴田四郎兵衛花井八
 郎右衛門杉浦一學丹羽縫殿左衛門村松
 郷八野々山七左衛門中根日根之丞丹羽
 五郎右衛門木村長兵衛曾根孫大夫大村
 弥兵衛村松郷右衛門三井孫七馬淵半市

梶川魚平櫻井九郎右衛門安西越前等ヲ
 物主トシ與八郎カ手勢迄銳兵ヲ撰テ五
 百人大手ヨリ大坂村表三股村ノ渡ヲ拒
 ント段々ニ輕卒ヲ立テ魚鱗ニ備ル所内
 藤修理川ヲ越テ三股ニ兵ヲ列シ一隊ハ
 合戦ヲ始ムヘシ一隊ハ軍ニ構ハス南西
 へ押出シ城兵ノ後ニ廻リ其退クヘキ路
 ヲ取切ヘシ又一隊ハ東ヨリ北へ廻リ獅
 子カ鼻ヨリ出タル敵ヲ壓ヘシト相謀リ
 鶴翼ニ備フ然ルニ獅子カ鼻ヨリ向ヒシ

城兵ハ此口ハ敵蒐ラサレハ三股村ニ軍
 始ラハ横ヲ討ント頻ニ走リ來ル折柄武
 田ノ多勢鹽買坂ヨリ一度ニ下テ國安村
 迄長蛇ノ備連絡セシカハ獅子カ鼻ヨリ
 出シ城兵尚以テ三股村へ向ヒシ味方ノ
 後ヲ黑メント南ニ向テ馳行于時三股村
 ニ出張セシ城兵ハ功者ノミナシハ矢砲
 ヲ稠シク發シ三股ニ備ハ繰引ニノ獅子
 カ鼻ヨリ出シ味方ト一所ニ屯ス敵ハ急
 ニ進マ入静ニ跡ヲ躡テ來ル其間ニ小笠

原右京三度輪乘シ假粧軍ノ蒐引ハ爰十
 ルヲ惣ニ闕テ大軍ニ圍レ附入ニセテハ
 ナト後殿シテ兵ヲ揚心然ルニ大坂山ノ
 際十ル隘路ニテ吾壯士等居敷テ備ヘ兩
 方ノ山崎ニ弓銃ヲ段々ニ立テ待ケレハ
 右京大ニ怒リ旄ヲ揮テ頻ニ下知シ其外
 老功ノ士爰ハ早ク引取カ手柄ノ場十リ
 甲州ノ三段ハ頭ヲ撃ハ尾ヲ以テ當手下
 城ノ間ヲ遮リ中ヲ撃ハ先備ハ後ニ廻リ
 跡備ハ横ヲ突ントスルソ早々引取レト

聲々ニ下知ノ難十ク兵ヲ收メシカハ敵
 モ是ヲ大ニ嘆美シケル斯テ内藤ハ城ノ
 大手摠門迄進テ火炮ヲ烈シク發シ矢島
 久左衛門勇ヲ振ヒ昌豊ハ三十歩許退キ
 堂々整々トノ備ヲ立静ニ繰引ニス于時
 味方ノ壯士跡ヲ躡ントス與ハ郎本城ヨ
 リ使ヲ馳テ鹽買坂ヨリ敵ノ大軍下テ國
 安村迄打續キ屯ヲ設ク一里半ノ所十レ
 ハ喰留テ戰フ最中附入ニセント押采テ
 ハ大ニ危カルヘシ城ヨリ出ヘカラスト

制止ス信玄ハ敵七敵ナリ内藤最モ功者
ノ由氏ニ褒稱ス城兵評議ノ曰信玄城
壓ヘ大坂村邊ニ滞留下ラハ夜中ニ一手
ハ搦手ヨリ萩原坂ヲ越ヘ大谷口ヨリ大
坂村ノ西ヘ出テ濱松ヨリ後詰ノ躰ニ見
セ関ヲ揚ントキ城中ニモ関ヲ發シ東ヨ
リ又一隊ヲ進メ懸川ノ城ヨリ後援ノ様
子ニ見セ敵色メク事ナクハ輕ク戰テ
敵ニ一鹽付テ案内者ナレハ一騎打ニ東
大谷山ニ引入ハ不知案内ノ甲陽勢跡ヲ

慕フヘカラス万一附慕ハ々兼テ伏ヲ置
テ討捕ヘシ幸ニノ敵最初ニ色メクナラ
ハ城中ヨリ惣蒐シテ一舉ニ信玄ノ握奇
ヲ敗ラン或ハ信玄城ヲ攻スノ横須賀ヨ
リ馬伏塚ノ方ニ押通ラハ横須賀山ノ手
ヨリ跡ヲ躡テ嶺々尾先々々ニ伏ヲ置テ
火砲ヲ以テ惱テシ敵蒐ラハ早ク山林ニ
引入敵引ハ又跡ヲ慕ニ討ント色々善策
ヲ運ラスト云々
○六日 信玄軍ヲ凱シ小田松鷺坂宮口

ヲ放火シテ久野ノ城ノ間ニ上州ノ小幡
ヲ備ヘ懸川ノ城ヲ巡視メ天方飯田秋葉
山光明山鑰掛平ノ舊城ヲ修築シ兵ヲ籠
テ天野宮内右衛門景貫カ乾ノ城ニ到リ
軍勢ノ勞ヲ休メ能滿寺ノ城郭經營其功
畢リケレハ小山ノ城ト称シ越後ノ浪客
大熊備前朝秀ヲ以テ守ラシメ相良ノ新
城ヲ築キ畢リシカハ駿州先方ノ士交替
ノ衛護スヘキ旨制令ヲ嚴ニ成シ信州伊
奈ニ引入今度北條ト和融ニ依テ駿州ノ

要城ニ籠置先方ノ士半著到ニテ伊奈ヘ
来リ集ルヘシ 神君最初天龍川ヲ涯リ
ト約セラレ今大井川堺ノ由 宣フト偽
リ參遠ヲ攻ント企ワト云々實ニ暴惡ノ
至極遂ニ勞ノ功十少死ニ就クニ及ヘリ
○廿六日 信玄既ニ軍勢揃フニ依テ伊
奈郡ヲ發シ西參河ニ赴ク總軍二万三千
ト云々
○是月駿州ヨリ武田ノ海賊遠州掛塚ノ
渡海シ村里ヲ亂妨ス 神君本多忠勝ヲ

以テ討シメ玉ハントス于時大河内善兵衛政綱本多ヲ諫メテ曰兵勢ヲ顯ハシ主ハ敵必引取ヘシ旌旗ヲ卷テ潛ニ折懸ルヘキカ忠勝其諫メニ應シ濱松ヨリ密々掛塚ニ到リ旗ヲ俄ニ顯ハシ敵民屋ニ入テ亂妨スル所ヲ思フ俛ニ突立シカハ大ニ周章シ一恠モセス船ニ乗テ逃去忠勝勝關ヲ叢シ飯陳セントスル于時政綱郷内ノ海岬ヲ巡視スルニ敵ノ乗棄タル兵船三艘アリ即是ヲ燒却シケル所ヘ忠勝

馳来リ大ニ感シ討捕首二百餘級ヲ持セ歸リ神君ノ御覽ニ備ヘ政綱力敵船ヲ燒ク事ヲ言上ス

○此春秋山伯耆晴近東參河設樂郡ヘ出張シ田嶺ノ管沼刑部貞吉其子新三郎貞忠力陪臣城所道壽作手ノ奥平美作守貞能力從士山崎善七郎ヲノ信玄ニ屬セシム夫ヨリ晴近竹廣ヘ出張シケル所ニ神君無二ノ幕下野田ノ管沼新八郎定烈設樂ノ設樂甚三郎貞通西郷ノ西郷一族

馳向テ秋山引退ク遠州乾ヨリ天野宮内
 右衛門景貫同小四郎景廣早速設樂郡長
 篠ノ乗本村ニ出張ス城主菅沼新九郎正
 貞左衛門尉兵ヲ發シ迎ヘ戦フ天野小四
 郎一番ニ岩代川ヲ涉リ鎗ヲ合ス城方菅
 沼道満戦死シ両方死傷スル者多シ城兵
 引入ケレハ秋山城郭ヲ圍ム其節田峰
 リ城所道壽来テ城内ノ菅沼伊豆満直ヲ
 謀テ遂ニ城將新九郎ヲ降シ伊豆力子八
 左衛門ヲ證人トメ受取與平貞能力方ヨ

リハ一族久兵衛カ娘ヲ質子トメ出シ島
 田ノ菅沼伊賀三照故信濃定ト共ニ甲陽
 ノ幕下ニ入三照ハ後入道休也ト菅沼小
 大膳定利同十郎兵衛于取称モ田峰ニ在
 ケルカ同姓刑部敵トナル故流落ノ野田
 ノ同苗新八郎定盈ニ據テ濱松ニ到リ
 神君ニ仕フ秋山晴近ハ城所道壽ヲ遣ハ
 シ新八郎定盈ヲモ味方ニ招クト云ハ氏
 義心鏡石ノ如クニメ面談ニモ及ハ道
 壽ヲ追返ス此道壽ハ元定盈カ家臣ニテ

野田ノ内ノ藤井ヲ領シケルカ奢侈ノ餘
リ里民是ヲ憎テ租税ヲ收メ入爰ニ於テ
田嶺ノ管治ニ仕ヘ尚又野田ノ地ヘ誓ヲ
成ニト最初ニ信玄ニ屬シ其娘並ニ當時
田峰ノ臣節木久内カ次男ヲ質トシテ甲
陽ニ贈ル

○相傳フ小大膳定利ハ故大膳亮定繼
カ弟ナリ刑部定吉ハ定繼カ遺子ナリ
ト云々

四月大

○七日 遠州所々ノ郷士武田ニ與シ參
州作手口ヨリ岡崎ノ城ヲ襲ハントシ今
夜碧海郡岩津村ニ到リ近邊ヲ放火ス
神君ノ 鈞命ニ依テ青山喜大夫義門
牛大夫卯野小兵衛阿知和右衛門尉玄鏡
馳向テ合戦ヲ遂ケ一揆ノ奴原悉ク追撃
シ碧海郡阿知和村ノ左右ト云フ所ニテ
喜大夫戦死スト雖殘ル輩功ヲ勵ニ敵
真福寺ヘ退ク處ヲ追撃シ餘喜土岐山ニ
テ各鎗ヲ合セ悉ク一揆ノ殘黨ヲ吉田口

新編 武田 信玄 傳

卷之十一

書中 國藏

へ追拂フ 神君大ニ感シ玉フト云々

①註 阿知和玄鑲ハ野見松平ノ庶流也青

山義門ハ渥美郡百々村ノ領主也

○十五日 信玄駿府ニハ武田上野介信

光駿州ノ先方等ヲ以テ守ラシメ遠州乾

二穴山梅雪ヲ將トメ信州定番ノ千貫百

騎十貫一匹ノ寄合組小田原ヨリノ援ニ

都テ三千ヲ城主天野ニ加ヘ 神君ノ拒

トシ今日西參河加茂郡足助ノ城ヲ襲フ

當處ノ鈴木越後重直喜三郎重時兵庫助

其以下壘ヲ避テ退ク一族ノ内弥兵衛某

等信玄ニ降ル信玄下條伊豆信氏ヲ以テ

足助ノ城代トシ夫ヨリ同郡淺谷梁瀬九

門入道八桑那須惣太代松平傳足利鈴兵

道悦大沼木村藤九此城々へ兵ヲ發ス

衛原田弥五平此城主等ハ纔其祿三千石ニ及ハサル小

給タル故勿論微兵ニノ大敵ヲ拒キ難ク

城ヲ避テ濱松ニ至テ御旗本ニ昵近ス各

敵ニ屬セサル事ヲ感セラレ即堪忍料ヲ

賜フ木村安信ハ弥十右ノ内太代ノ松平

卷之十一

傳藏近清カ子五左衛門近正ハ宗家大給ノ松平左近真乗カ部下ト成ト云々

○鈴木家傳ニ曰參州一木鈴木内藏助

重信民部丞足助表ニ於テ討死スト云

々此時カ甲陽軍鑑ニ曰然ノ後信玄ハ

鈴木黨ノ内降叅スル族ヲ嚮導トシ設

樂郡野田へ押寄ル所城主菅沼新八郎

退散入山縣手へ首三十七級ヲ討捕テ

廿九日ニ連木ヲ攻ル所濱松ヨリ兵ヲ

發シ城ヲ救ハントシ玉ヲ信玄諸軍ヲ

以テ城ノ正面ヲ攻サセ山家三方及ヒ

信州松尾ノ小笠原掃部助信嶺ヲシテ

後面ヨリ攻サセケレハ城兵拒ク事ア

夕ハス城ヲ避退クト云々文略ノ此起

御當家ノ實録菅沼家傳等ニモ曾テ見

ヘス菅沼カ野田ノ落城ハ翌春十リ軍

鑑ノ説大ニ非十リ但シニ連木表へハ

此時手遣ヒ有ケルカニ連木落城ノ事

曾テ是十シ

○是月 神君濱松ヨリ言田ニ御動座退

兵五千許城外ニ屯ヲ設ケ玉フ信玄八一ノ先手山縣三郎兵衛昌景濱名峠ヲ過半其勢押下ス處當所ニ連木城ノ援將タル酒井左衛門尉忠次力郎從宮藤燒内弟甚大夫馳向テ燒内一ノ矢ヲ發ス山縣力組魁出セル勇士ヲ前輪ノ上ヨリ踏輪迄射通シ其次ニ進メル武者ヲ甚大夫一箭ニ射落シケレハ山縣勢聊擬議ノ進ニ入宮藤兄弟其間ニ二連木へ引入左衛門尉兵ヲ率テ吉田ニ歸ル然ノ一陳山縣二陳勝

賴八百摠兵一万三千餘ヲ高地へ設ケニ賦シ兵勢ノ厚キヲ顯ハス是ヲ立クヲ神君吉田ノ城ニ入玉フ敵進ミ來ル戸田左門一西大津土左衛門時隆三宅弥次兵衛正次後殿ノ山縣力同心廣瀨郷左衛門景房ト戸田鎗ヲ合セ三科傳右衛門形景ト大津鎗ヲ合ス時ニ山縣力士孕石源右衛門小菅五郎兵衛元成モ馳來ル神君吉田ノ城大手ノ門櫓ニ扇ノ御馬標ヲ立サセ敵味方ノ勸御覽アリ戸田大津並ニ

卷之十一
十一
畫中圖

畫中圖
十一

三宅等山縣力銳兵ト四箇度迫合互ニ物
 別レス信玄敵十カラモ戸田大津三宅力
 驍勇ヲ感シ如斯名士ハ討ヘカラスト下
 知ス神君モ亦甲陽ノ銳兵ヲ感セラレ
 殊ニ廣瀨カ武者振ヲ譽サセ玉ヒ近臣菅
 沼藤藏定政干時廿一歲ヲ以テ廣瀨ニ名乗ラ
 スヘキ由ヲ告ラル三宅弥次兵衛正次
 モ亦大音揚テ是ヲ呼ハル廣瀨馬上ニ
 揖メ其姓名ヲ称スト云々

○神武雄備集ニ曰此時孕石三科ハ白

齒者ヲ擊捕廣瀨ハ首級ヲ獲スト雖參
 州ノ剛兵ニ附慕フヲ以テ信玄別ノ廣
 瀨ヲ称シ躬ラ掛ル所ノ吭輪ヲ當坐ノ
 賞トメ授ク又甲陽ノ説ニ曰軍畢テ後
 信玄吉田城へ廣瀨三科ヲ遣ハシ戸田
 大津三宅ヲ呼出シ其武勇ヲ譽テ金ノ
 喉輪ヲ送ルト云々

五月大

○六日 舊臘朝倉淺井ト和融ノ事信長
 ノ計策タリト雖是ヨリ盟ヲ破ラシト敢

テ江北へ手遣ヒナシ然ルニ淺井長政堪
へ兼先達テ大坂本願寺へ調畧ノ江拉三
郡ノ一向宗門ノ緇素ヲ催シ一揆ヲ起サ
シメ今日信長方鑣羽ノ城ヲ頻ニ攻ル所
横山ノ城ニアル木下藤吉後詰ノ一揆人
猛勢ヲ大ニ破テ城兵樋口三郎兵衛多羅
尾右近モ亦突テ出寄手ヲ討走ラシム秀
吉城兵ト臣ニ一揆ヲ追テ斬獲スル首二
百餘級也是ヨリ信長ハ淺井カ盟ヲ破ル
事ヲ彌シ再ヒ干戈ヲ起サレ

○十日 信長五万餘兵ヲ卒テ勢州長島
ノ邪徒ヲ攻ン夕メ發向多藝中筋兩口ヨ
リ三万人ヲ進メ島々ヲ放火セラル
○十二日 信長勢引取後殿ノ一ハ柴田
ニハ伊賀伊賀守範俊三八氏家ト全ト定
ル所大田川ヲ登リニ賊徒早船五六十艘
火炮ヲ備へ横ヲ討シメ且跡ヲ躡テ味方
大ニ敗績シト全戦死ス
○此頃武田信玄東參河ヲ侵略ス
御勤座有テ一宮ニテ戦アリ小林

吉勝御馬先ニテ敵ト組撃シ片腕

廿ル 中甸ニ信玄共
ヲ本國ニ塩入

六月小

○七日 武田勝頼其幕下天野景貫三
簡ヲ遣ハス

武田勝頼一軍ハ今度ハ彼別能敵働ハ其者ニシテ
浦足ハ先ヨリ嵩ト付ル旨定メテ秘シク
望園ニ傳入ル枕中子是小臣而計及於長源後
家希神河守合地別ニ粉骨成灰ハ其ト云何也
此ハ其退ル中筋於大寺不也云云尚玄蕃以尾上

後ハ乃用示旨了云云後ハ云々

六月七日 胎乳

天野景貫及

○十四日 從三位行大膳大夫兼陸奥守
大江朝臣元就享年七十五歳ニシテ藝州吉
田ノ城ニ率去寛仁大度深知絶才世ニ稱
ス凡ニ違ハス且平素和歌ヲ好テ其詠草
一冊世ニ行ハルト云々

七月大

○織田家ヨリ濱松ハ信玄力封境ニ近ク

レハ岡崎へ遷住シ玉フヘキ由ヲ申送ラ
ル 神君ハ吾當城ヲ避テ岡崎ニ遷ラシ
事遅カラサル旨 御返答ニ及ヒ近臣ニ
向テ信長何ヲカ宣フヤ吾當城ヲ退ク程
十ラハ刀ヲ踏折テ武門ヲ止ムヘシト
仰ケレハ聞者其勇銳果斷ヲ感激ス
○廿五日 遠州濱名ノ郷主大屋安藝政
頼永禄十二己巳年以來麾下ニ屬スル所
叛テ信玄ニ歸服ス即其没收ノ地ヲ戸田
三郎右衛門本多百助ニ是ヲ賜フ

○或曰越前ノ朝倉カ部將山崎魚住半
田又八郎等當弥生ノ頃ヨリ今月ニ至
リ若州佐柳ノ城主粟屋越中守勝久ヲ
攻撃城中ニハ勝久及ヒ國士山本豊後
同上野等微勢籠ルト云ヘ元元ヨリ越
中守壮勇ニノ敢テ屈セス防戦ヲ遂テ
寄手退倦シ中山ト云所ニ附城ノ構ヘ
天正元癸酉迄遠責ニシ終ニ退散ノ後
木下秀吉彼城ニ往テ足下ノ忠分實ニ
武夫ノ龜鑑トスヘシトテ粟屋カ手ヲ

執テ首ニ戴カレ當時既ニ明智光秀大
望アル故密ニ羣將ヲ試ミケルノ兼テ
秀吉諸卒ノ功ヲ賞スル事ノ至テ厚キ
ヲ聞テ驚嘆ス常々彼秀吉務テ力志ノ
心ヲ擊ル事如斯ト云々

八月小

○廿一日 信長江州新村ノ城ヲ陷シ新
村筑後守資良ヲ始メ六百七十餘ヲ打擄
嫡子資則次男五郎助氏秀駿州ニ遁ル
○廿六日 信長小谷ノ城ト山本山ノ通

路ヲ斷テ餘湖木本辺放火セラル

九月大

○朔日 信長ノ武威ニ屈シ小川ノ城主
小川孫一祐忠後改土佐守並ニ金森ノ城主等
悉ク降ルト云々

○五日 上杉謙信ヨリ其臣萩田與三兵
衛ヲ以テ書ヲ呈シ且贈物アリ植村山羽
守家政殊ニ執達セシムルニ備前長光
ノ刀並ニ修驗者出立ノ板具足一劍ヲ謙
信ヨリ贈リ且酒井忠次松平真乗へテ書

傳來ノ爰ニ記ス
牒ヲ授スト云々石川家成へノ一簡其詞

及一紙玄妙云々奉以控現當也家ノ入魂
云々其実ハ於愚志大志以時辰中居之云々今也
云々此ヨリ能ク境口上張守居云々成於人云々所也

九月廿日

謙信

石川日向子及

○十三日 信長情察スルニ比叡山ノ叢
徒邪謀ヲ構へ去年ハ朝倉淺井ヲ誘テ登
山サセ 帝都ヲ侵サントシ今又武田信

玄ニ内應シ渠カ上洛ヲ催ス由然レハ
主道ノ大敵佛法ノ大魔ト謂フヘシ速ニ
根ヲ断テ葉ヲ枯ラスヘシトテ今未明ヨ
リ比叡山ヲ圍ミ攻ル三千ノ大衆防戦ヲ
十スト云ヘ所々ヨリ焼立テ山王二十
一社根本中堂文殊樓三塔院々谷々殘ル
所十ク灰燼トナリ死傷スル僧徒已
遑アラズ金剛相摸ト云ヘル大力ノ
惡僧如意カ嶽ヨリ信長ノ扣ヘラル東坂
木ノ大鳥居ニ矢ヲ發シケルカ駿馬ノ太

腹ニ中テ馬殪ル又信長大鳥居ノ石ノ上
ニ腰ヲ掛テ山上ノ炎上ヲ一覽セシル所
ヲ相模ニノ矢ヲ發テ石ニ中リ鏃碎ケシ
カハ近臣鳥銃ヲ揃ヘ如意カ嶽ヘ巖シク
發セシム相模顛沛シテ逐電入渠カ矢ノ
根一尺二寸アリシヲ後年洛陽大佛殿ノ
寶庫ニ納ムト云々信長山門退治畢テ坂
本ニ城郭ヲ構ヘ明智光秀ニ滋賀郡ヲ添
テ宛行ハル山門衆徒ノ濫行ハ是ヨリノ
永ク止マール

○信長去ル永祿十二己巳年ヨリ朝山日
乗上人島田民部ニ命シ 禁裏 仙洞修
造ノ事始アリテ今年悉ク成就セシム
主上 上皇叡感斜ナラス且當時戰國十
レハ御領所ヲ獻スルニ於テハ一揆ノ所
得ニ成ルヘキカト信長思慮ヲ凝シテ洛
ノ大商等ニ金銀ヲ貸置毎月其利分ヲ官
庫ニ収ムヘシト堅ク命令アリ

十二月小

○武田信玄參州ニ攻入シト欲ス因茲

神君吉田ノ城ニテ新年ヲ迎ヘ玉ハシト
テ濱松ヲ發シ吉田ニ到リ玉フ

出馬ト云々

濱

御

○廿八日 信玄六七千騎ニテ二連木ニ

出陳ス今宵本多忠勝敵陳ヘ夜討ス大河
内善兵衛政綱等功アリ

○廿九日 黎明ニ信玄吉田ノ城ヘ押詰

ル大久保彦十郎忠為 只一

騎惣門ヲ乗出シ下リ立テ鎗ヲ横夕ヘ武
田ノ魁兵ノ斥候ヲ待受ル大津去左衛門

時隆大久保甚七郎忠長 後改甚右衛門 續テ馬ヨ

リ下テ忠為カ左右ニ片膝突テ待設ル

神君渠等討人十ト下知シ玉ヘハ味方大

ニ斃ヒ駈出テ敵ノ大軍ニ屈セス扣ヘ夕

ルヲ見テ武田勢周旋シテ引取ケレハ

神君忠為ヲ召テ今日吉田ノ宿城ヲ敵ニ

襲ハレサル事ハ汝一人カ功也ト褒賞アリ

又土左衛門甚七郎ニモ忠為万死ノ處

汝等早ク乗付然モ其競ヒヲ以テ諸軍奮

發シ大敵退去スル事大剛ノ士ト訶ヘシ

ト是亦褒賞ニ預ルト云々

①此一件甲陽軍鑑中興源記 元工ガ
ルヲ以テ 御當家ノ書籍ニモ漏ル
信長口ニ蜜アリ腹ニ劍有テ甲越ノ二雄
ヲ欺キ賺サント欲シ今ニ於テ幣禮ヲ竭
シ渠カ信長ヲ讐トスルニ繫ハラヌ務テ
両家へ親炙シ且甲州へ漆ヲ所望ス信玄
青沼助兵衛忠吉ニ命ノ三千桶ヲ用意シ
信長ノ使節ニ是ヲ渡サシムト云々

元龜三五申年

是年十月一言坂退口ヨリ
十二月味方原鬪ニ至テ四
戦紀聞ニ戴ル事詳ナル故
是ヲ省畧シ其大槩ヲ著ス

正月大

○上旬織田信長ノ三子首服ヲ加フ嫡男
奇妙御曹司ヲ勘九郎信忠次男茶筵丸ヲ
三之介信雄三男三七郎ヲ信孝ト稱ス
②信雄ハ北畠具教卿ノ養嗣ニシテ信孝
ハ神戸藏人盛友ノ嗣子ナリ

○十三日 神君駿州ニ手遣ヒ有ントテ
遠州金谷ニ御出馬アリ酒井左衛門尉忠
次小笠原與八郎長忠ハ井呂力瀨ヲ涉リ
島田河原ニ陳シ巡視ノ飯ル本間八郎三
郎清氏ニ亡父長季力遺領安堵ノ印章ヲ
賜フ

○十九日 神君濱松ニ還入シ玉ヲ然ル
ニ武田信玄今ニ 神君ト上杉謙信謀送
ノ事ヲ知ラスノ今度 徳川勢大井川ヲ
越テ駿州ノ地ニ勸ク事ハ嚮ニ予大井川

ヲ境トセント約シ忽是ヲ變シ參州遠州
ノ地ヘ兵ヲ出シケル故其憤ヲ散セラ
ルヘキ為ナラント察シ弥是ヲ幸トメ鉾楯
ニ及ヒ參遠ヲ畧セント欲シ使ヲ濱松ニ
發シ徃日天龍川限リト約セシニ今更駿
州ノ地迄出陳ノ事奇怪ナル旨ヲ申送ル
○廿八日 越中ノ椎名肥前守泰胤甲府
ヘ羽撤ヲ發メ 徳川家ヨリ去年遠州秋
葉ノ加納坊熊谷小次郎直包ヲ遣
ハシ上杉謙信ト謀略調テ向後武田家ヲ

卷之十一
三十一
三十一
三十一

卷之十一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

頃クヘキ盟約アル由傳ヘ聞ク旨ヲ告ル
爰ニ於テ信玄先達テ 徳川勢、信州ノ
地ニ叢スル故ヲ悟リ彼両雄合體アラハ
武田ノ社稷危殆ノ由愁ヲ懐クト云々

四月大

○廿八日 上杉謙信 神君へ手合トノ
信玄カ分國信州長沼へ出張シ放火亂妨
ヲ禁シ邦内ノ武備ヲ沙汰スル處ニ伊奈
郡ヨリ武田四郎勝頼僅八百許ニテ今日
馳著テ一戦セントス謙信渠カ微弱寡兵

ニノ吾八千ニ敵セントスルヲ感シ柳崎
景家ヲ殿トシ兵ヲ收ム

七月大

○廿八日 江北ノ淺井益其兵勢衰ヘケ
レハ救援ノ朝倉義景 其共二万余 今日柳ヶ
瀬迄出陳シ一兩日ヲ歷テ小谷ノ辺大嶽
ノ麓ニ屯ス而シ氏朝倉弱將故既ニ信長
小谷ノ城ニ迫ラン為ニ頻リニ築營アル
虎御前山ノ向城出木ノ功ヲ妨_一甲サヘ
協ハスノ空シク光陰ヲ送ルト云々

卷之十一
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十

八月小

○中旬 神君ノ使節植村與三郎中川市
助越後春日山ノ城ニ到テ尊簡ヲ謙信入
道ニ達シ彌昆弟ノ睦ヲ成シ玉ノキ由
口授ノ旨ヲ述ル此時輝虎管治定盈植村
家政ニ書ヲ没ス

退中甲虎如海ノ初於長江神物切中入ル
内ノ其口之公許而後家康ハ為使派テ有入魂
形ノ四ノ二ノ子ニ下子細ハ惣紙中合ハ之
演說入之ハ至教有子口出而粉骨ノ糸之以流

何如於高介可動有旨浦以可公易以於彼可有
口表以品々也

八月廿日

謙信

菅沼新八郎及

十月小

○三日 信玄三万五千ヲ帥テ甲府ヲ發
之山縣三郎兵衛昌景ニ五千餘兵ヲ副テ
信州ヨリ直ニ東參河ニ赴カシム是雪深
キ折柄ニテ謙信信上ノ間ニ亂入ノ憂十
キ故也信玄遠州ニ入テ乾ノ天野宮内右

衛門景貫ヲ嚮導トシ多々羅飯田ノ西城
ヲ拔テ久野ノ城ヲ攻ントス于時 神君
濱松ヨリ内藤三左衛門信成等ヲ斥候ト
ノ見付ノ原ヘ遣ハシ玉フ處ニ敵既ニ木
原西島ニ充滿ス其時濱松ヨリ本多平八
郎忠勝等馳來ル信成是ニ力ヲ得テ引取
レトスル所ニ敵競ヒ來ル味方ハ見付ノ
町ニ火ヲ放シ烟ノ紛レニ退カハ敵ハ不
知案内也必備躁クヘシ于時大返ノ討退
クヘシト胥議シ火ヲ放ク所ニ案ノ外ニ

敵地理ヲ察シ見付ノ臺ニ押揚テ一言坂
ノ下リ立迄棄蒐シカハ味方梅津某漸ク
岩石ヲ棄下ス其時大久保勘七郎忠正ハ
火炮都筑藤一郎ハ弓ヲ携ヘ後殿シケル
力互ニ方シ得テ勘七郎返シテ一二間ヲ
隔テ鳥銃ヲ發シ敵ヲ打外ス藤一郎ハ矢
ヲ發シ大久保治右衛門忠佐同荒之助忠
直渡邊一族鎗ヲ取テ返シケル時本多忠
勝唐ノ頭掛シ敵味方ノ間ニ馳入テ縱横
ニ乗割味方一騎モ討セズ兵ヲ全クシテ

歸ル 神君ハ成瀬吉右衛門正一ヲ以テ
忠勝カ働ハ八幡宮ノ化身ナルヘシト称
美セラルル甲陽ノ小杉右近カ 家康ニ過
タル者ハノ狂歌ハ此時ノ事ナリ

○大久保忠教カ參河記ニ 神君勘七
郎忠正ヲ召テ汝何トノ一二間ノ内ニ
於テ敵ヲ撃外スヤト 問ハセラル忠
正曰都筑カ弓ヲ持テ殿スルヲカニメ
火炮ヲ發セントシケルカ臣臆メ打外
スト云ヘリ藤一郎ハ勘七郎カ殿スル

ユヘ臣モ立怵ヘ矢ヲ發スト云ケレハ
忠正カ兄治右衛門忠佐曰藤一ノ詞ハ
愚弟ヲ執成玉ヲナリ勘七郎何トノ獨
立ニ後殿セシヤ都筑曰然ラズ忠正坂
ノ下口ニテ決拾ノ緒ヲ解ケルヲ見テ
臣モ亦立怵ヘシト云々 神君笑ハセ
玉ヒ兩士カ剛臆ハ措テ論セズ後三ハ
鳥銃ノ中程ニ手ヲ掛テ火皿ノ下ヲ取
テ發シタルニヤト 訊ハセ玉ヲ勘七
郎爾ル由ヲ述ル 神君仰ニ見付ノ臺

ヨリ退キ来リ喘息スルユヘ常々トハ
標的違フ完ク汝カ臆スルニ非ス息喘
シキ時ニ火皿ノ下ヲ持テ覘ヘハ呼息
ニテ筒先上リ吸息ニテハ筒ノ先下ル
者十リ如斯息喘シキ時ハ両手ニテ引
金ノ下ヲ持テ放テハ筒先狂ハス標的
違ハサル者ツト教ヲ施シ玉ヲ按スル
ニ濱松ヨリ見付ノ驛迄行程三里七町
アリ木原西島三賀ノ橋等ハ袋井ト見
付ノ間十リ

○然ノ後信玄遠州豊田郡二股ノ城ヲ穴
山梅雪ト典厩ヲ以テ是ヲ攻ルト云ヘ
壁壘高ク城將中根平左衛門正照援將大
草ノ松平善四郎康安後改善兵衛青木又
四郎貞治巖シク防戦ス于時山縣馬場巡
視メ此城東ハ小川ヲ控ヘ西ニ天龍川ヲ
帶トス水ノ手ハ岩高クノ櫓ヲ懸シ
岸ヨリ轆轤ヲ以テ天龍川ヲ汲テ民水ト
ス最モ水勢烈シト雖大綱ヲ以テ筏ヲ繋
多組テ河上ヨリ流シカケ水ノ手ノ釣瓶

繩ヲ斷テ城兵ヲ渴セハ忽戈ニ運塗ラス
ノ城陷ントテ其手段ヲ成シ遂ニ水ノ手
ヲ斷ケレハ 神君ハ後援トノ筈懸山迄
御勤座ノ事城中ニハ知ラスシニ嵩ニ堪
ス城ヲ渡シ濱松ニ歸ル又濱名郡宇都山
ノ城ハ敵營ニ近ク通路ヲ斷ントス松平
備後守清善ハ竹谷ノ領知ヲ其嫡子玄蕃
允清宗ニ讓リ退隱ノ身ト雖宇都山ニ赴
キ守ラント請フ 神君大ニ感セラレ友
長村千貫ノ地ヲ賜フ櫻井ノ松平與一郎

忠正設樂甚三郎貞通ハ參州野田ノ城ノ
援兵トノ赴ク本多太郎左衛門並ニ青木
所右衛門一重ハ遠州高天神ノ小笠原力
加勢トメ彼城ニ籠ルト云々此一重ハ
御當家ヲ去テ後秀吉ニ仕ヘ七隊ノ一將
トメ民部少輔ニ任スル也服部權大夫政
光ヲハ海陸ノ拒トメ東村ノ寨ニ
十一月大
○上旬信長ノ援兵九頭荒井本坂ヨリ濱
松へ段々ニ進メリ

○廿六日 信玄濃州岩村關山派大圓寺
 希菴和尚ヲ徃日再三甲陽ニ招クトイハ
 其殘忍暴虐ヲ憎ク來ラズ信玄怒テ秋
 山伯耆ニ下知シ信州下伊奈ノ間謀ハ沢
 源五郎小田切與助林甚助ヲ刺客トシテ
 今日希菴ヲ殺害ス

○小幡景憲カ傳記ニ信玄彼希菴ヲ殺
 サセ其日ヨリ齒草ノ疾ニ侵テレテ甚
 苦痛スト云々

○下旬信玄カ使節日向玄東齋宗英遠州

ノ屯ヨリ朝倉義景カ江州大嶽ノ陳中ニ
 到テ朝倉ニ謁シ口授ノ趣ヲ演說シ書牒
 ヲ授ク

如前々書云月之日甲府同十日尚小礼入款
 不跡擊碎牙二股化元語以討之及山家濃別里村
 屬味方討信長カ高級部平次以討而由分別行要以
 為去玄亦亦云々細説與彼口上之座
 云々

十一月十九日

胡余丸書督後
 由若平

信玄

○細川六郎昭元後称右京大夫神君ハ羽檄ヲ呈進ス是三好方ノ將帥夕リト雖當三月以来信長へ属スル故也。是ハ右京兆晴元ノ子幼名聰明丸勝之ト云シ人十

十二月大

○廿一日 信玄其兵三万五千濱松城外ノ村里ヲ放火シテ明日ハ井谷ニ働キ長篠へ出ント味方原ノ边前山村ニ屯ス神君出テ戰ハント欲シ玉フ盖信長ノ密旨ニ依テ援將等十一月以来 神君ヲ諫

メ月ヲ踰テ戰ナカラシム今日モ尚頻ニ諫諍シテ戰ヲ止メ奉ルト云々

○廿二日 信玄味方原へ押出シ長者原ニ赴ン為ニ堀田へ引下サントスル所濱松方ノ壮士等五騎十騎宛駈出雜卒ヲ進メ礮ヲ打シム甲陽ヨリモ多勢ヲ發ス味方既ニ千騎ニ及テ出張シケハ神君モ後ニハ御出馬アリテ摠軍八千ヲ一重ニ備ヘラル是ハ信長ヨリ援兵来ル故大軍タル由ヲ敵ニ示サレン急也然レ

信玄存候ヲ以テ見切此所平陸廣野坐
備ヲ用ルニ其便宜シ殊ニ神君ノ雄武
ヲ與深ク存シ諸隊皆坐備ニノ戰ヲ遂ル
處味方ハ對揚スヘカウサル微勢初メハ
聊勝ニ乘スト雖終ニハ大敗ニ及ヘリ
神君一世ノ間ニ捷ヲ失ヒ玉フノ甚シキ
ハ今日ノ軍ナリ然レモ幸ニ濱松城ニ
入セ玉フ手負死人殊ニ多シ大久保忠世
等後殿シテ濱松ノ摠郭ニ兵ヲ賦テ防戰
ノ設ヲ堅固ニ成ヌ敵軍城邊ニ迫ルト雖

責ルニハ及ハス今日軍終リ夜ニ入テ松
平玄蕃允清宗ヲ堀江ノ城主大澤左衛門
佐基胤カ加勢トシテ遣ハシ玉フ
○相傳フ渡邊半藏カ功ヲ賞シ遠州濱
名郡吉備村七十貫豊田郡立野村三十
貫ヲ加ヘ賜フ神原九右衛門政所味方
原ニテ鎗ヲ合セ其子ハ兵衛政小齋
首級ヲ得ル神君火砲ヲ賜フ山上彦
左衛門鎗ヲ合セ首級ヲ得テ敵ニ鎗ヲ
以テ首ヲ突カル依之御感状及ヒ赤根

ノ羽織ヲ賜フ杉浦八郎五郎鎮貞寛又
 藏兩人進テ敵ヲ射拂フ各矢ノ根二本
 宛テ授ケラル菅沼藤藏定政八大久保
 五郎右衛門忠勝カ手負タルヲ助ケ鞍
 ノ前輪ニ抱キ乗セ我軍ニ入此由忠勝
 言上ノ長光ノ刀ヲ賜フ水野惣兵衛忠
 重力功ヲ賞シテ頭形ノ冑並ニ佛胴黒
 塗紺絲ノ鎧ヲ賜フ鳳來寺藥師堂別當
 安養院人數ヲ携ヘ來リ軍功アリ故遠
 州榛原郡ニ於テ采邑ヲ賜フ此僧植村

帶刀カ子十レハ還俗シテ土佐守泰忠
 ト称シ勇烈ノ譽ヲ顯ハス

○或曰斯波治部大輔義遠ノ弟津川弥
 太郎義長二男牧喜右衛門長治カ養子
 右衛門四郎長定ハ榊原康政カ部下ニ
 テ味方原ニ於テ疵ヲ被リ危キヲ丹羽
 六大夫酒井與九郎重頼是ヲ救リ濱松
 ノ城ニ皈シケレ在創深クノ遂ニ卒ス
 享年四十二歳其子又十郎長次瀧川一
 益カ隊ニ屬シ軍功アリ一益池論ノ後

御家人ト十ル

○甲陽ノ説ニ岡部治部右衛門

次郎右衛門正

弟經落合市之丞二人氏ニ信玄ノ旨ニ違

ヒ馬場力備ヲ借りテ各先登ノ功ヲ勵

マシ濱松勢ノ内金ノ制札ノ指物ト金

ノ挑燈ノ捺物ニテ羣ニ抽テシ銳士二

人ヲ若ノ兩輩各眼ヲ付氏ニ廣言吐テ

馳向ヒ岡部ハ制札ノ捺物ノ亡ヲ討捕

落合ハ挑燈ノ指物ノ士力首ヲ得テ敵

ノ捺物ヲ添テ馬場ニハ見セヌ互ニ尋

遭テ前ニ約セシ如ク高名セシ由ヲ述

テ勇名ヲ發ス然シ氏敵弱兵ニテ見崩

レスル時ハ味方ニ拔羣ノ驍士有テモ

如斯功ヲ遂難シ濱松方能ク働キ勝ツ

事ヲ得サレ氏足次ヲ頼サヌ退シエハ

兩人其志ヲ遂テ功ヲ顯ハスト

○信長ヨリ使節トノ大橋與左重

賢去ル廿日岐阜ヲ發シ今黄昏味方原

犀力殘ニ於テ神君ニ拜謁シケル所

武田勢斃ヒ來ル重賢從士吉田市三郎

妻木彦八戰死ス重賢ハ 沖怒ニ供奉
 ノ妙光寺口ヨリ濱松ノ城ニ入後日
 神君ヨリ賞トメ國行ノ刀ヲ賜フ
 ○夏目家記ニ次郎左衛門吉信今松ノ
 御雷守タリシカ櫓ニ登リ戰場ヲ眺望
 シ忽馳到テ 神君へ言上シケルハ敵
 頗ル勝ニ乘ス早夕御飯城有ヘシト
 神君仰ニ吾城下ニ於テ敗セハ存命ノ
 益ナシ且敵ヲ後ニ當テ引返サシ事難
 カルヘシ籠ノ者ニ御馬ノ口ヲ放セト

有シカ氏猶豫シケレハ鎧ヲ以テ渠ヲ
 蹴玉フ吉信頻ニ御馬ノ口ヲ放スヘカ
 ラスト云テ馬ヨリ飛下テ御轡ニ取付
 強テ諫メ奉リ且 御諱ヲ賜テ 君命
 ニ代ラント彌シ漸ク御許容アリシカ
 ハ畔柳助九郎等ヲシテ御馬ヲ松ノ
 方へ引返サセ鎗ノ鐔ヲ以テ鞭 一打
 テ後ニ 御諱ヲ彌シ十文字ノ鎗ヲ揮
 テ敵二人ヲ突殺シ手勢三十五人ト
 氏ニ遂ニ戰死ス

于十五時五
 歲

○一説ニ今日ハ福釜ノ松平三郎次郎
康俊三百人濱松ノ御留守ト云々

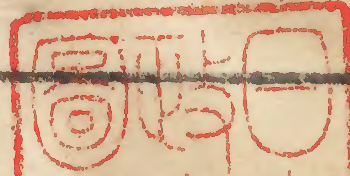
○外山小作正重ハ先達テ御使トノ信
玄カ許ニ往テ當麻ノ鎗ヲ授ル日彼
鎗ヲ以テ一番鎗ヲ合セ遂ニ戦死ス或
ハ上方浪人中川土元兄弟濱松ニ仕ヘ
ケルカ是ノ懸川迄逃走ルト云々

○廿三日 敵尚味方原ニ屯シ名栗ニ穴
山カ勢張番夕リ味方ノ驍卒彼ニ出テ敵
七人ヲ討捕ト云々此俊信玄一日ニ三度

宛相詞ヲ替ル由甲陽軍鑑末書ニ見ユル

○廿四日 信玄遂ニ濱松ノ城ヲ攻スノ
平口村ヲ歴テ引佐郡刑部村ニ赴キ爰ニ
超年ス

○或曰山縣三郎兵衛井平ニ屯スル所
井谷ノ近藤平右衛門秀用郎 瀨與
兵衛ヲ携ヘ在々所々ニ隠シ敵 實
ヲ伺フ且敵六人ヲ打捕山縣怒ノ鄰村
ノ庶民ニ觸テ其謀者ヲ尋ル所近藤平
右衛門カ所為ノ由矢文ヲ射ルト云々



○松平家傳二曰石原三郎右衛門力子
 茂兵衛一次力母八松井左近忠次力妹
 也依之一次ヲ忠次力子ニ准シ松井ノ
 氏ヲ授ケ一次味方原ノ軍ニ同シ餘
 人十任ニ奮戦シ命ヲ殞ス于時廿五歳
 未夕其子十カリシヲ神君野見松平
 越中忠廣力長子茂兵衛一定ヲ以テ松
 井ノ遺領ヲ繼セ玉テ是モ亦慶長庚子
 伏見ニ忠死ス

